



2022年 6月 7日

日本鉄道労働組合連合会

JR連合国会議員懇談会/21世紀の鉄道を考える議員フォーラム

JR九州高速船 QUEEN BEETLE を視察!

5月28日、JR連合国会議員懇談会、21世紀の鉄道を考える議員フォーラムは、福岡市内においてJR九州高速船QUEEN BEETLE国内運航航路の視察行動とJR九州との政策意見交換を実施した。

JR九州高速船は、コロナ禍に伴う約2年にも及ぶ釜山航路の運航休止により、先行き不透明な厳しい経営状況が続いている。そうした中でも、一時帰休や在籍出向をはじめとした雇用調整やコスト削減などの自助努力を重ね、さらには福岡湾周遊運航や船籍変更による門司港航路の就航など、国内運航に活路を見出し、全従業員が一丸となって懸命に運航継続を果たしてきた。

一方、新型コロナウイルスの水際対策については、すでに6月より1日あたりの入国者数の上限をこれまでの2倍となる2万人へ引き上げること、さらには外国人観光客の受入を再開することなどが公表されており、国内でも観光再開にむけた気運が高まりつつある。

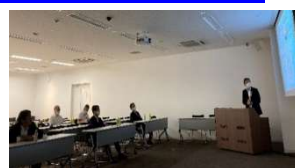


こうした背景から、JR九州高速船をはじめとする海運（商船）業界の現状と課題の把握を目的として、当日の視察にはJR連合議員懇談会から会長の榊葉賀津也参議院議員、幹事の長浜博行参議院議員、大串博志衆議院議員が参加。また、21世紀の鉄道を考える議員フォーラムからは、JR九州労組推薦の稲富修二衆議院議員、野田国義参議院議員、古賀之士参議院議員が参加した。参加者は船内説明に熱心に耳を傾け、船内で働く組合員に激励の言葉を送った。

船内視察後の意見交換では、JR連合の荻山市朗会長が冒頭挨拶で、JR各社のGW利用状況や2021年度決算を踏まえ、JR産業の窮状についてあらためて訴えとともに、反転攻勢にむけた取り組みについて、今後も断続的に展開していく決意を述べた。その後、JR九州高速船株の水野正幸代表取締役社長から「QUEEN BEETLEを取り巻く現状と課題」について説明を受けた後、課題解決にむけて闊達な意見交換が行われた。

JR九州との政策意見交換を行い現状・課題を共有

続いてJR博多シティへ移動し、JR九州の松下琢磨常務執行役員より新たに策定した中期経営計画に触れつつ、「博多駅エリアの取り組みと博多駅空中都市プロジェクト」と題し、JR九州のまちづくりにかかる取り組みの説明を受けた。近年、成長可能性都市として高い注目を受ける「福岡市」の魅力とそのポテンシャルを示し、その玄関口である博多駅を中心とした九州全域に亘るまちづくりに対する姿勢や考え方に各参加者からは高い関心が寄せられた。



JR連合は、今回得られた知見を提言や政策活動に反映させ、政労使が一体となった取り組みを展開し、課題解決にむけてあらゆる関係者の理解と協力を求めていく決意を共有した。